十二月二十二日 例年のとおり上京し、二十七日まで、政府の明年度予算四二兆五八八億円決定までの舞台裏で、予算獲得運動でかけまわる。財政再建のため、事業費に伸びのないきびしい予算で、新規事業を認められるのは困難だが、豊栄市は大部分継続事業なのであまり心配はないと思う。

十二月二十五日 日本一の民間放送であるTBS本社へ行き、テレビ本部長と企画室長に会い、明年豊栄市で「家族そろって歌合戦」の公開全国放送をしてもらうことの承諾を受ける。新町建設二十五周年、市制十周年の記念行事とするもの。文化講演会は既に東北電力に内諾を得ている。このほか各種行事の計画を進めているが、市民の皆さんもいい考えがあったらきかせてほしい。

十二月二十八日 昨夜帰ってご用納めの日に出勤したら、工事現場で死亡事故があったとの報告を受ける。昨日午前十一時、住宅供給公社の駅裏団地で、汚水管布設工事の鋼鉄板の打込中にワイヤーロープがすべって落下し、村松町から来ていた作業員が死亡したもの。これで死亡二件、重傷一件という最悪の年になった。報告に来た会社の責任者に厳重注意するとともに、市内の全建設業者に対し、文書で警告書を発した。会社が安全対策に万全を期するだけでなく、作業に当る一人一人も十分気をつけてほしい。

十二月三十一日 大みそかは小雨だが、雪はなく、割と平穏に今年も暮れる。消防署長の報告によると、今年は火災十六件で、うちボヤが十二件、住宅全焼一件もなし、という好成績。最も多かったのが昭和四十四年の四十三件、最も少なかったのが昭和五十二年の十四件。しかし、昭和五十二年より世帯数が四三〇増えていること、焼失の損害額等を総合すると、実質的には今年が最高の成績といえる。明年はさらによくしたい。

昭和五十五年一月一日 元旦歩こう会の参加者が六三〇人。公民館長元旦からさるのようぬぐいが足らないで、長元旦から市民もいに頭をかく。早速追加注文した。一九八〇年代は市民もいっそう世界的視野にたち、省エネルギーでがんばろう。

一月七日 先月号に書いた白鳥の研究家本田清君から市役所へ来てもらい、企画広報課職員とともに福島潟の野鳥についてきく。記事参照。NHKブックス「白鳥のいる風景」は年末に発行された。福島潟に関する記事や写真も多い。全国の書店でたちまち売り切れ、近く再刊分が出るとのこと。

一月九日 シベリヤ抑留の経験のある中黒山の町谷君が来訪。しばらくソ連視察の話をする。忙しい毎日なので、一人ごとに詳しく話をすることはできないが、団体で懇談会を計画してくれれば出席する。今までにもPTA、校長会、ロータリークラブなどで七回講演をし、今月も二回の予定がある。

一月十日 財政課長から、明年度一般会計予算の編成状況をきく。やりたい事業は多く財源不足で四苦八苦の最中。今年度当初予算は六十億三千万円、明年度は一応六十六億円をめどに課長査定を進めることとする。

市長の日誌 石井新一

やあ!! おげんきですか

元旦歩こう会に連続十三回参加した中沢富一さん（高山一）

中沢さん、おいくつになりますか。

「おれかね、この十三日で七十二になりました」

元旦歩こう会には、第一回から参加しているとか。

「はい、第一回は、昭和四十三年でしたね。参加者は全部で、百人ぐらいでしたかね当時は、今のコースは健脚コースで、約四、三キロメートル足の弱い人は、一般コースで、約二キロメートルの二つがありました。ところが、ほとんどの人が健脚コースに参加するので、一つになったんです。年々、子供の参加が多くなり、歩くのが速くなりましたね」

歩き心地は、いかがですか

「元旦の早朝に、歩くんだから、それは気分がいいですよ。今まで、二度ほど、猛吹雪で、大変な歩こう会でしたがね。顔なじみがいましてねしゃべりながら歩くと、あっという間に終わります。おれは、酒が飲めないんですが、新年の御神酒と、市長さんからの手ぬぐいをもらうと、スキっとしますね」

外出は歩き専門とか

中沢さん

「そうだね、遠方へ行くと、急ぐ用以外は、ちょっと一番書いてもらいました」

ぐらい時間がかかっても、歩非常に健康そうですが

きます。靴をはくのが、余り「そうでもないんでねぇ。好きでないもんで、下駄ばか血圧などは、悪くないけど、りなんです。この下駄が、一血が薄いと言われます。くだ年に二、三度、平らになりま ものが好きで、余り栄養のあすかね」 るもの食べないせいでしょう

趣味は、どんなものを か。朝、昼、晩と、ご飯は一

「これという趣味はないね ぜん。寝るのは、七時か八時え。酒、タバコは全然だめだ 起きるのは六時と、規則正しし、お茶も飲みません。酒を い生活をおくっています」

飲む人は、飲んべぇ仲間がい 歩こう会について何かありるけど、おれには、そういう ませんか

こともできません。そこで、 「走るのだったらダメです

若いころから将棋 が、歩くのはいいですねぇ。

をやっています。 コースを変えたらどうかという人もいますが、今のところが距離的にもいいし、ただ、葛塚東小学校から、前新田沖にかけては、道が悪くてねぇずうっと続けてもらいたいしおれも、ずうっと参加したいです」

出土品は語る (21)

鳥屋遺跡 第三回発掘

清野信夫さんが畑の床下げをすることになりましたので隣接の木竜栄太さんの田と約七百平方米の発掘の承諾を得ました。国県の応援を得、豊栄市教育委員会が昭和五十四年七月二十三日から発掘をはじめました。担当者は和洋女子大の寺村光晴先生と新潟中央高校関雅之先生でした。寺村先生は第一回の鳥屋発掘された時の担当者であり、関先生は長い間新発田高校に勤務され、県の文化行政課に入り、現在新潟中央高校に務められて居りお二人とも有名な考古学者です。関先生は新発田高校時代の教え子であり、大学に進み、専門的に考古学を研究し現在活躍している九人の若人を集めました。博物館の宮崎芳春君も上黒山に前期縄文を発掘した阿部朝衛君もその一人です。その九人に鳥屋の村人も毎日十五人ずつそれは熱心に応援してくれました。

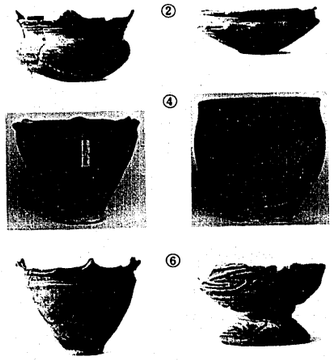
最初は戸まどったようでしたが、毎日やっているうちに一人前の考古学者になりました。八月六日村人の仕事は終り、いよいよ専門的な精密な調査発掘が九人によって半裸体で休むことなく八月十六日までつづきました。おかげで遺物一万点以上の大成果をあげました。これから主たるものを紹介します。

1浅鉢、黒褐色、口縁部は六ケ所の突起があり、頸部に三本胴部に五本のへらで引いた太い線があり、他は無文

2浅鉢、黒色、口縁部は平で頸部に細い二線をつけ下に一六ケの小突起をつけ胴部には帯状の縄文をつけ工字文を描き、ところどころ磨消す。

3鉢、黒褐色、口縁には六ケの波状があり、胴部に條痕をつける。

4鉢、褐色、口縁部は平で ほとんど無文。



①

②

③

④

⑤

⑥

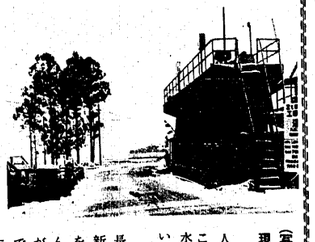
5鉢、黒褐色、口縁部は大きな突起が四つあり、その間に小さな突起が二つあり、胴部は全面に縄文をつける。

6台付き土器、褐色、口縁部は平で全面に複雑な工字文を描いて朱を塗る。

—畠山佑二記—

はし

(10) 長場堰(せき)橋



（写真は、現在の長場堰橋）

現在の橋は、昭和三十九年に竣工したもので、がんじょうな橋ですわ。小さい時水あびが盛んで、よく橋の上から飛びこんだねぇ。泳ぎの上手な人は、堰の上の深いところで、下手な人は、水の少ない堰の下で泳いだもんです」

「この堰はですね、長場や大月興野、内沼新潟などの人が堰組合を作って維持してきたんです。最初のころ堰がなく、土のうや芝草で川を止めていたんですが、うまくいかず、木造の堰をこしらえたんですね。堰の隣りの川崎藤四郎という人が、専門の番付でしたね。小舟を一せき用意しておいて、堰をあける時、板が流れていくのを拾うんですよ。いやあ、なつかしいねぇ。ところが、木の堰だと、手間がかかるんで、今の鉄筋コンクリート製になったんです。総工費が三千万円だったとか、長場の尋常高等小学校の建設資金と同じだったといいます。この堰を造った時、水をくみあげたら、井戸水までがカラカラになりましてね。それに水だめが隣りにあったんですが、忘年会帰りの車が、その水だめを道だと思って、四人が落ち、全員死亡した暗いニュースもありました」

きれいな水だったとのことですが

「昔は、飲料水にも使ったほどです。暴れ川の駒林川ですが、雨で板がとれると、フナやヤツメなどが上ってきました。春になればイトヨ、夏はツノガラエビや、しじみ貝もたくさん採れました。今では上流から、水原のシャボン水、京ケ瀬からは寒布水など、汚れていますがね」

「長浦を語るに、堰なくして語れませんね。まあ、長浦に堰ありですわ」

開口一番、長場郡太さん（長場、七三歳）は力説します。

「この長場という部落はですね、長場さんと曽我さんという家がありまして、〝うちが本家だ〟〝いや、おれんとこが本家だ〟と、長場さまの本家争いが続いたところなんですが、堰のことになると、よくまとまったもんです」

長場堰橋について

「長場は部落名で、堰があるから長場堰橋というんです。堰は、主に農業用水を取り入れるために水をせき止める施設です。最初の橋は、明治四十四年ころだったと思います。コンクリートが出始めたころで、大変珍しかったですね。竹ザルや金網のついたザルで、砂や砂利をよりわけてねぇ。